

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和5年度 第2回 川西市健康づくり推進協議会	
事務局(担当課)		健康医療部 保健・医療政策課	
開催日時		令和5年8月3日(木)午後2時	
開催場所		川西市役所4階 庁議室	
出席者	委 員	<p>出席 織田委員、林委員、松浦委員、樋口委員、佃委員、酒井委員、平岡委員、清水委員、蜂須賀委員、日下委員、福井委員、武内委員、寶田委員、松隈委員、中澤委員、釜本委員、高瀬委員、中村委員</p> <p>ウェブ出席 西口委員、黒山委員、森田委員</p> <p>欠席 臼井委員、ラローズ委員、山田委員</p>	
	その他		
	事務局	<p>健康医療部: 阪上部長、松本副部長、塩川副部長 保健・医療政策課: 西村課長補佐、中嶋主任 保健センター: 坂上所長、森所長、北田副主幹、曾野歯科衛生士、宮代主査</p>	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 市長との意見交換(健康づくりについて) 3 議事 (1)次期計画素案について 4 その他 5 閉会		
会議結果	別添「審議経過」のとおり		

審議経過

1 開会

開会の挨拶（ウェブ出席者については、疎通及び本人であることを確認）

2 市長との意見交換（健康づくりについて）

（市長挨拶）

現在第6次総合計画策定の最終段階に入っており、各個別計画についても具体化に向けて協議を進めている。健康分野は、大変幅広い分野であり、生活全てを網羅しなければならず、楽しさと難しさを感じながら（仮称）健康増進計画を作成している。高齢化が進む中で、健康で幸せでいる時間をいかに長くしていくのかが大きな問題であり、病気になる前の普段の生活の中からどのような状況を作っていくのか、悩みながら政策を進めている。

また、地域医療連携推進法人を立ち上げ、それぞれの地域の医療機関・専門機関が連携し、地域の医療を守っていこうとしている。医療だけではなく福祉の分野とも連携し、市民の幸せをどう守っていくのかが大きな課題だと感じている。

本日は、日々の生活の中で、日々の研究の中で、川西に足りないと感じているところ、進めるべきところについて、是非ご意見をいただきたい。

【意見交換】

（委員）

シルバーカーが走行しやすい歩道の整備について、どのように考えているか。

（市長）

スマートウェルネス（健幸）の観点からも重要な問題だと認識しているが、全ての歩道を整備するには相当な費用を要する。当座の取組としては、街路樹の適切な維持管理が有効であると考えている。また、病院周辺の道、買物に利用する道など、場所ごとに対策を実施することも必要であると思う。

（委員）

出勤時に喫煙する者が多いためか、駅周辺の煙草臭が気になる。

（委員）

大和地区のバスの運行がなくなるのではないかという話があるようだが、高齢者にとってバスは地域内を移動するための重要な手段である。コミュニティバスの運行など、何らかの対策を考えてもらいたい。

（市長）

公共交通の問題には非常に頭を悩ませている。大和地区のバスについては、市内で唯一阪急バスへの赤字補填を実施しているが、それでも資金が足りていない状況である。補助金などを活用して存続させる方策を検討している。また、移動の確保については、バスだけではなくボランティアによる移動支援など福祉的な手段も視野に入れ、誰のどこへの移動手段を守っていくべきかという観点で議論を進めている。

（委員）

明峰地区の高校生たちの自転車乗車マナーが悪く、高齢者が危険にさらされている。この点について、どのように考えているか。

（市長）

ハード面での対策として、自転車道の整備を進めている。また、より重要な対策として、交通ルール遵守を啓発する取組も進めており、警察などと協力して学校にも働きかけている。市内の中学生からも自転車通学の希望が出ている状況であり、高校よりも早い段階から交通ルール遵守について学習できるよう、取組を進めている。

(委員)

中学生の自転車通学については、坂が多い地区もあり、危険ではないかと危惧している。一方で、学校では将来的な部活動のあり方を考える必要があり、部活動を多様化させ、企業や地域に入って学校外でも活動できるようにするためには、自転車は必要ではないかと考えている。コロナ禍の影響で体力が低下している子どもたちの健康についても、公園での運動など、なるべく費用がかからない対策を検討している。

(委員)

第6次総合計画策定の進捗について、遅れが生じているのではないかと。

(市長)

春頃までは、市長選の選挙活動の関係もあり少し遅れていたと認識している。基本構想については、12月議会での議決が必要になるが、予定どおり進んでいる。また、個別計画についても、同時並行で策定していく予定であり、市の計画全体の進捗としても大きな遅れは生じていないと考えている。

(委員)

次期計画案に記載のある日常生活の中で幸せを感じられる健康でいきいきと心豊かに暮らせるまちというのは、目指すべき姿だと感じている。出かける目的があれば心豊かな生活につながるの、人とのつながりや集まる場所が大事な要素になると思う。計画では、ライフステージ別という視点が入り入れられているが、青年期・壮年期世代の主体的な取組も重要になると思うので、計画に加えていただくと有り難い。

(委員)

保健師が、こども・若者ステーションのプレイルームを訪問し、子どもについての悩みや保護者の健康状態など様々なことについての相談を行っていた。子育てのストレス解消にもなるため、非常によい取組だと感じた。

(市長)

健康づくりの取組の中で悩みながらやっているところがあり、その点についてもご意見をいただくと有り難い。

健康づくりの一番大きな課題は、興味のない方へのアプローチをどうするかだと感じている。健幸マイレージなどの事業も興味がある市民には効果的だが、興味のない方には効果が薄いのが現状である。市としては、興味のない方が病気になるのをどう防いでいくかを検討することが重要だと考えている。

次に、施策の成果をどう見ていくのかについて。健康施策の最大の目的は、市民一人ひとりの幸せや健康寿命の延伸だと考えているが、個人の健康に市がアプローチするからには、医療費削減のような財政的・社会的なインパクトも必要だと考えている。個人の成果と社会のインパクトをどう測っていくかについて、悩みながら施策を進めている。

最後に、計画名などに「健幸」という言葉を使用するかどうかについて。「健幸」の文字は間違っているのではないかと意見や、国の法律と合わせるべきではないかと意見、「健幸」にはより幸せになるというメッセージが込められており変える必要はないという意見など様々であり、当協議会からもご意見をいただきたい。

(委員)

最初に「健幸」の文字を見た時には変わった字だと感じたが、意味を聞いて、象形文字のように読んで意味を持たせたのだと思った。いろいろな所で間違えているのではとの指摘を受け、説明する面倒もあったのかと思う。

(委員)

運動機能が低下している高齢者などに対して、バスなどの移動手段を提供するのか、なるべく徒歩で移動してもらうのか、どちらが正しいのかという問題の答えは、一つにまとまらない気がする。どちらが正しいかは、人によっても変わる。「健康」とするのか「健幸」とするのかも、答えを出すのは難しい。

(委員)

食は人の健康のベースであり、衣食住そろっての健康的な生活を送ることは、とても大切である。この会議の所掌は健康づくり全般ということで、食だけがということではないが、健全な精神は健全な肉体に宿るという言葉もある。川西の以前から持っている食文化、食に関わる皆さんのお話をこれまで聞いてきたので、食に関係のある団体の皆さんの意見も、次期計画の中には是非組み込んでもらいたい。全体の計画が方向性を示すうえで大切であることは十分理解している。

(委員)

子供への接触は体罰にあたることがあるため忌避されているが、よい経験だったと考える者もいる。この点については、どう考えるか。

(市長)

市内では、体罰は行われていないものと考えている。指導方法は難しくなっているが、体罰が必要だとは考えていない。

(委員)

どの世代でも体罰に納得していない者は多い。市長の言うとおりに、現在は、体罰や威圧的な指導はされていないと信じている。

3 議事

(1) 次期計画素案について

次期計画素案について事務局より説明

【質疑・応答】

(委員)

7頁「川西市の健康課題を踏まえた基本方針」が、アンケート調査結果のみをベースに提示されているように見えるが、川西市におけるその他の背景やデータについても言及する必要があるのではないか。

(委員)

7頁に記載の基本方針1～5については、「健康増進」「食育推進」などの文言を、各基本方針の初めに配置するか末尾に配置するか、検討した方がよい。

(委員)

7頁の「川西市の健康課題を踏まえた基本方針」がアンケート調査結果のみをベースに提示されているように見える件については、「本市のこれまでの健康政策を踏まえ」との記述があるので、このままでもよいのではないかと。

(事務局)

検討の上、対応する。

(委員)

7頁「基本方針2」の「デジタル化」とは何を意味しているのか。

(事務局)

食育アプリの利用やSNS・WEB上での料理教室などを想定している。

(委員)

年号について、和暦のみの記載となっているが西暦を記載する必要はないか。

(事務局)

他計画との整合性を考慮し、必要であれば修正する。

(委員)

42頁以降の第4章について、ライフステージ別に分類されているが、「青年期」や「壮年期」などは区分として設けないのか。

(事務局)

国のプランにおける区分を参考に3区分としているが、「青年期」「壮年期」を区分として記載する必要があるか再検討したい。

(委員)

「健幸」という言葉の使用については、賛成である。理由は、①キャッチコピーとして優れているため、②誤字ではないかとの問い合わせ自体が広報の機会となり得るため、③最近では様々な場面で使用されているためである。

また、大学では、学生による地域の健康課題調査、レシピ提案に取り組んでいるが、川西市の好意で、ホームページ・広報誌に学生が考案したレシピを掲載いただいている。これは、学生・市民双方の関心を促す効果がある。興味のない方へのアプローチとしては、参画できることが重要だと感じる。計画はよくできているが、川西市の持つ広報力を活用することで更によいものになると思う。

(委員)

「健幸」という言葉の使用については、委員会として賛成という結論でよいか。

(反対意見はなく、「健幸」の使用については、委員会として賛成であることが確認された。)

4 その他

食育カレンダーの配布について事務局より説明

5 閉会

閉会の挨拶